

イエス・キリストは 黒人だった?!

ルイス・カナレス著
渡辺 貴代子 訳

1958年に上映された、Tennessee Williams の名作『熱いタン屋根の猫』には、頑固な南部の白人の家長が登場し、酒びたりの息子にこう叫ぶシーンがある。「嘘だけで生きていくことなんてできないんだぞ。白人中心の進化のプロセスこそ、虚偽の一例ではないだろうか。

映画『マルコムX』(1992)と、彼の自伝に感銘を受けた私は、アフリカ系アメリカ人と黒人の文化について、もっと知りたいと思うようになった。(Gaidai Bibliotheca no.149 を見ていただきたい) それに関する本をたくさん読んだが、中でもニューオリンズの書店で見つけた Felix T. Ehui の “What If Blacks Did Not Exist...” に、とりわけ興味をそそられた。

著者の意図は、それぞれの人種の優劣を証明しようとするものではなく、黒人文化についての間違った認識を糾すものであり、同時に、アフリカとアフリカ人について、示唆に富むデータを提供してくれるものである。

20世紀末、あらゆる科学者や人類学者が協力し、人類(ホモサピエンス)はおよそ15万年前にアフリカを起源として発祥したという調査を完了した。カリフォルニア大学の Christopher Wills 教授の説によると、最初は中東へ移住し、そしてその他の大陸へ移動していった。約3万5千年前から1万5千年前には、アフリカ人はベーリング海峡を渡り、アメリカ大陸にたどり着いた。そして何万年もの時をかけて、ネグロイド、コーカソイド、モンゴロイドの3つの初期的な人種に分割し、その他の人種へと細分化を遂げた。ゆえに、もし黒人が存在しなかったら、その他の人種も存在しえなかったことになる。『創世記』では、人類を創造した神は、3つの異なった人種ではなく一人の人間を作った。

黒人の起源について Ehui 教授は、彼らは優れた文明の子孫であり、王や女王の子供であり、決して下等な野蛮人ではなかったと述べている。この

点について、著者は慎重な調査を重ねて本書を練り上げている。ギリシアの「史学の父」と呼ばれる歴史学者

ヘロドトスは、エジプト人は黒人だったと語った。「彼らは焼けた肌をし、低い鼻、分厚い唇、カールした髪をしていた。ドイツの学者 Karl R. Lepsius も、そのことを立証している。「われわれがエジプト人だという人を見れば確実にネグロイドだろう。エジプト文明が最も進歩した古代文明の一つであることは、誰も否定しないだろう。

アフリカ、エジプト、中東は旧約聖書の舞台であり、“What If Blacks Did Not Exist...” には、最初のユダヤ人の起源についてのユニークな意見も述べられている。要旨も詳しく展開されている。『創世記』を詳細に研究し、ユダヤ人の土地は元々は黒人の土地で、ユーフラテス川の南にあるカルデアであったと解明した。最初のユダヤ人は黒人であり、預言者モーゼも黒人だった。映画では聖書の登場人物は皆、白人の姿をしている。モーゼ、イエス・キリスト、ソロモン王やシバの女王・・・。(エチオピアの黒人のユダヤ人のファラシャ人は、ソロモン王とアラビアの女王シバの息子、Menelik の子孫だと主張している)

イエスの本当の肌の色に関して言えば、第一次世界大戦後のニューヨークに the Black Jews というグループが出現し、イエスは黒人だったと主張した。(イエス・キリストの祖先は黒人のユダヤ人の住むカナンから来た。それゆえイエスは黒人だったという可能性が生まれてくる) 公民権運動の活動家、Malcolm X もイエス・キリストは黒人だったと断言した。「伝道師 Billy Graham も同じようなことを公言した。そして、ローマ教皇 Pius XII (ピウス12世) が亡くなったとき、Life 誌は私室で黒いキリスト像の前で膝まづいて祈る彼の姿を掲載した」と述べた。

英国マンチェスター大学の最近の研究で、キリストの新しい一面が発見された。Richard Neave 教授は、1世紀ごろのユダヤ人の頭蓋骨にコンピュー

